

# ときめき★インタビュー

## 空手は僕が自分でいられる世界 武道者として一生かけて空手を追求したい

全世界空手道  
型競技選手権大会チャンピオン

井上雄太さん



### プロフィール

1988年9月30日生まれ。越谷市在住。栄進中学校、成立学園高校、立正大学卒業。小学6年で極真空手の門下生となり、高校時代に組手の関東大会2連覇。2009年ハンガリーで行われた極真館主催の「第2回全世界空手道型競技選手権大会」に初出場し第3位。2013年6月23日、国立代々木第二体育館で行われた「第3回全世界空手道型競技選手権大会」で優勝。現在、極真空手道連盟極真館埼玉県南支部北越谷道場の主席指導員。

師範の勧めで型競技に転向  
念願の世界チャンピオンに

「東北で行われる型の大会に出  
てみたいか」

高校2年の夏、井上さんが恩師  
と仰ぐ堀井 浩師範(埼玉県南支  
部支部長)の一言で、転機が訪れ  
ます。

「型の練習も以前からしていま  
したが、大会に出るのは初めて。  
師範の勧めに『押忍』と即答した  
ものの、正直、予選を通ればいい  
だろうと思っていました」

ところが、結果は決勝まで進み、  
第3位。以来、井上さんは型競技  
に興味を持つようになります。  
その後、翌年の高校3年生には、  
型競技の全日本青少年空手道選手  
権大会優勝、さらに韓国で行われ  
た国際大会で優勝します。

型競技へ転向し快進撃を続けた  
井上さんですが、大学に入ると高  
校生までの青少年の大会とは試合  
の雰囲気が大きく変わったと言  
います。

「予想以上のレベルの高さに驚  
きました。青少年の大会とは試合  
に対する意識が  
違うなという印  
象です。毎年、  
大会に出ても歴  
代の優勝者をは  
じめ強豪がたく  
さんいたので、  
勝つのが難しく  
なりました」

準優勝や3位



という成績が続きますが、世界大  
会に照準を合わせ、堀井師範と二  
人三脚で稽古に打ち込みます。

そして、2009年10月、ハン  
ガリーで行われた世界大会に初め  
て出場し第3位に。しかし、銅メ  
ダルを獲得するも、井上さんは非  
常に悔しかったと言います。

「ハンガリーでは、わずか0・  
1ポイント差で3位でした。この  
ときから4年間、世界大会で勝つ  
ことだけを考えて練習してきまし  
た。師範のためにも何とか勝ちた  
かった」

そして今年6月、国立代々木第  
2体育館で行われた第3回全世界  
空手道型競技大会でついに優勝。  
念願の世界チャンピオンという  
夢を成し遂げた井上さんに、改め  
て空手の魅力を尋ねました。

「空手は僕が自分でいられる世  
界。自分の人生の中で一番自信を  
持てるのが空手。一生かけて続け  
られるものだと思います」  
今後一武道者として空手を追  
究したいと話す井上さん。

「次の目標は世界大会2連覇で  
す。押忍！」

道着姿に憧れ、小学6年で極真空手入門。以来13年  
間、厳しい稽古を重ね、今年6月、ついに念願の世界チャ  
ンピオンに。世界王座を獲得した井上雄太さんのこれま  
での足跡と、空手の魅力、そして今後の目標などを北越  
谷道場で伺いました。

### 小学6年で入門以来 空手一筋の毎日

「小学6年生のときに、友達  
紹介で近所の北越谷道場に見学  
に行きました。友達の道着姿を一目  
見て、『かっこいい、自分もやっ  
てみたい』と思いました」  
入門以来、ずっと空手一筋だっ

たという井上さん。中学、高校時  
代は部活に入らず、ひたすら道場  
に通っていたそうです。

「学校と自宅、道場を行ったり  
来たりの日でした。高校時代は  
少年部や一般の部の指導も任せら  
れていたの、毎日大忙しでした」  
現在は型競技の大会に出場して  
いる井上さんですが、もともと組

手が大好きだったそうです。高校  
時代には組手の関東大会で2連覇  
の実績も。

「組手では上段回し蹴り、かか  
と落としなど足技が好きでした。  
道場で組手の稽古をするときも、  
絶対、足技を決めてやろうとい  
う気持ちでやっています」  
週5日の稽古をこなしていた井  
上さんですが、練習をつらいつと  
思ったことはないと言います。

「大会に出場し優勝したいとい  
う目標があったので、あまり苦に  
ならなかったですね。逆に、練習  
をしないと不安でした」